



—北アフリカ地域ニュース—

リビア：反政府勢力がトリポリ周辺の複数の都市を占拠

8月中旬、リビアの反政府勢力は、トリポリ周辺の複数の都市を占拠したと発表した。海と空はすでに封鎖状態にあるトリポリだが、陸路の補給路も危うくなる可能性が出てきている。

リビアでの地上戦闘は、まだ膠着状態にある。しかし、8月中旬からは、反政府勢力が、西部地域でいくつかの都市を占拠することに成功したと発表した。反政府勢力は、トリポリの西約50キロにあるザーウィヤ（3月に政府が奪回）に対して12日頃から攻勢を開始し、18日までに石油施設を支配下に置いたようだ。18日の米NYT紙は、市内と郊外には、まだ政府軍は残っているとしている。

また反政府勢力は、トリポリの南約50キロにあるガルヤンを8月18日に再占拠したとした。ガルヤンは、南からトリポリへの補給ルート上にあるといわれる。ガルヤンは、3月に政府軍が奪回した町で、7月頃から反政府勢力が、ガルヤン奪回を試みていた。仏国は、6月に同地域の反政府勢力に武器支援をしたと発表していた。

ベンガジの反政府勢力は、ザーウィヤ、ガルヤンに加え、ザーウィヤの西のスルマン（Surman）も占拠したと発表している。一方、東部戦線では、反政府がブレガ奪回を試みているが、政府軍に撃退されているようで、戦線に動きはない。

（主席研究員 中島 勇）